

民俗芸能祭

入場
無料



ひょうご

HYOGO



国安獅子舞
(稲美町)



淡路人形浄瑠璃
(南あわじ市)国指定



大蔵谷獅子舞
(明石市)県指定

令和6年(2024)

日時

12月1日(日)

13:00~15:00 (開場12:30)

会場

淡路市立サンシャインホール

兵庫県淡路市浦148-1

- 主催: 兵庫県無形・民俗文化財保護協会
- 共催: 兵庫県教育委員会
- 後援: 淡路市教育委員会
- 協力: 兵庫県無形民俗文化財ヘリテージマネージャー会



くにやすししまい

国安獅子舞 (稲美町)

国安獅子舞は加古川市、明石市、神戸市、三木市、播磨町の4市1町に囲まれた稲美町にある天満大池（県下最古のため池）に神輿を投げ入れる「禊（みそぎ）」の神事で知られる国安天満神社の秋季例祭に奉納される獅子舞です。

秋季例祭は氏子12地区の輪番制で、当番地区はその年の神事や神輿の「禊」を受け持ちます。その他、2地区のやっさ太鼓や国安獅子舞を含め8地区の獅子舞奉納が行われます。全ての地区が伊勢系の獅子舞（写真のように獅子の中に2人以上の演者が入る「二人立」の形態）で、国安地区にも10種類の演目が伝承されていて、全ての舞が物語となっています。

現在は、主に青年層の若者を中心に7月の八坂神社の祇園祭と10月の国安天満神社秋季例祭に獅子舞奉納を行っています。秋季例祭は元々は10月14日・15日で行われていましたが、現在はスポーツの日の前々日の土曜日に宵宮、前日に昼宮が行われています。



国指定

あわじにんぎょうじょうるり

淡路人形浄瑠璃 (南あわじ市)

淡路人形浄瑠璃は500年の歴史を誇る、淡路島を代表する伝統芸能です。起源は、室町時代末に西宮神社に仕えていた百太夫という傀儡師（くぐつし・人形遣い）が、三原郡三条村（現南あわじ市市三條）に来て、地元の人に人形操りの技を伝えたとの説が有力とされています。

江戸時代には阿波藩主・蜂須賀氏の支援を受け、18世紀初めに最も栄え、上村源之丞座、市村六之丞座など島内に40以上の座元（興行権を持つ者）があり、全国を巡業して人形浄瑠璃文化を伝えてきました。北は東北、南は九州での興行記録が残っています。全国各地に今も残る100か所以上の伝統人形芝居の多くは淡路座の影響を受けており、淡路島が人形芝居のルーツと言われています。喜怒哀楽を情緒豊かに表現する舞台芸術が内外ともに高く評価され、昭和51年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。



県指定

おおくらだにししまい

大蔵谷獅子舞 (明石市)

大蔵谷の獅子舞の起源・由来は、九州の豪族秋月種実が上洛の途中、大蔵谷に泊まった際、神社の祭神が家系と関係の深い神ということで、獅子舞神楽を献じた事に始まります。（明石名勝古事談、大宰府資料巻34より）

連綿と受け継がれてきた獅子舞ですが、戦争の影響を受けて、中断を余儀なくされました。しかし、このまま獅子舞がなくなってしまうことを悔やんだ住民が、昭和44年に大蔵谷獅子舞保存会を結成し、獅子舞の保存・継承に取り組んできました。その取り組みにより昭和54年には兵庫県重要無形民俗文化財に指定されました。

大蔵谷の獅子舞は、アクロバティックな芸や、激しく荒々しい動きの芸、繊細に獅子の心の機微を表す芸があり、見ている人も巻き込んで楽しめるところが特徴です。見どころは、「三人継（さんにんつぎ）」というクライマックスの芸です。2人の大人と子ども1人、合わせて3人が肩に乗り継いで立ちます。獅子が天へ帰る様子を表し、獅子が高くそびえ立つ様子は圧巻です。

昭和44年から現在まで、保存会として55年間先達が継承してきた伝統芸能を、これからも地域の人を中心に愛され、変わらず100年以上継承されるものにしていきます。



兵庫県無形・民俗文化財
保護協会とは

兵庫県内の無形文化財と民俗文化財の保存団体が加盟している団体です。無形・民俗文化財の保護と普及・啓発を目的として平成12年に設立されました。獅子舞・鬼追い・田楽・風流踊りなど多くの団体が加盟しています。

お問い
合わせ

兵庫県無形・民俗文化財保護協会事務局 兵庫県教育委員会事務局 文化財課内

TEL : 078-362-3783 URL : <http://hyomuminkyo.jp/>